

鎌倉同人会の活動にみる近代鎌倉のまちづくりに関する基礎的研究*

A Basic Study on the City Planning by KAMAKURA DOUJINKAI in Modern Kamakura

飯塚 陽生** 天野 光一*** 押田 佳子****

By Yousei IIZUKA Kouichi AMANO Keiko OSHIDA

摘要：大正期の鎌倉における急激な別荘地化に伴う数々の都市問題を解決するため、別荘居住者による市民団体である「鎌倉同人会」が設立され、我が国初期のまちづくりが行われることとなった。本研究ではこの鎌倉同人会のまちづくりに着目し、文献の読み取り調査を行った結果、別荘地や地域の住環境の改善に努めただけでなく、史跡や重宝を震災や戦災による喪失の危機からの保護や、段葛の桜並木・鎌倉駅の整備に努めるなど現在の鎌倉の景観に継承される活動の実態を明らかにした。

1. はじめに

近年、行政の不足を補うための市民団体によるまちづくりに対する期待が高まっている。鎌倉市が2007（平成19）年に作成した平成18年度報告書『市民活動団体と鎌倉市との協働事業推進に向けた取組みについて』では、市民の信頼に応えるまちづくりを行うことが行政に求められる中で、先駆性、専門性、柔軟性をもつ市民団体と自治体が協働で事業を行うことは、市民サービスの向上や地域の課題解決などのために大きな効果をもたらすと期待している¹⁾。

しかし鎌倉における市民のまちづくりは古くより行われており、その歴史は大正期にまで遡る。当時の鎌倉は、別荘開発に伴う景観の破壊や、海水浴などの保養文化参入に伴う一部社寺の衰退、粗悪な造りで不便なインフラストラクチャー（以降、インフラ）などの都市問題を抱え、高級別荘地として相応しいものとは言えない状況であった。このため、史跡保存とインフラの利便性向上を目的とするまちづくりを行う市民団体として鎌倉同人会（以降、同人会）が1915（大正4）年に設立され現代まで存続している。鎌倉で最も長い歴史を持つ市民団体である同人会に着目することは、市民団体によるまちづくりが後世

に及ぼす影響と課題を把握することにつながると考えられる。そこで、本研究では同人会によるまちづくりの実態と現代に及ぼした影響の把握を目的とする。

2. 本研究の位置づけ

既往研究では、片貝らによる戦後の住環境を巡る市民団体の変遷に関する研究²⁾や青木らの鎌倉町市青年団が建碑した史跡指導標に関する研究³⁾がある。これらの既往研究では複数の市民団体の比較や、市民団体による活動の成果物から空間把握が行われているが、ひとつの市民団体に着目し、その歴史的変遷と活動実態を研究した事例はみられない。その上で本研究は同人会に着目し、我が国の初期まちづくりの実態と現代への影響を把握することをねらいとするものである。

3. 鎌倉同人会

同人会は陸奥広吉（元ベルギー特命公使）、勝見正成（元鎌倉海浜院医員）、大島久満次（元神奈川県知事）などによって1915（大正4）年に設立された市民団体である。発足後は鎌倉の別荘居住者（以降、別荘族）をはじめ地元有力者が多く所属し、史跡保存、衛生・教育の普及、インフ

*keyword：鎌倉同人会、まちづくり、市民団体

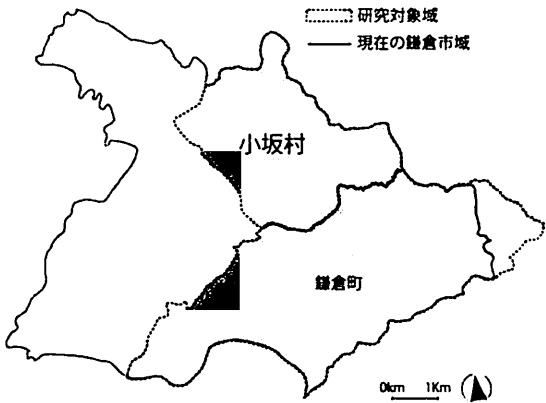
正会員 日本大学学生理工学部社会交通工学科 *正会員 工博 日本大学教授理工学部社会交通工学科

****正会員 農博 日本大学助教授理工学部社会交通工学科（〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 735号室）

ラ整備などのまちづくりを行った今日の NPO(非営利組織)の先駆けともいえる。

4. 研究方法

本研究では対象地を図－1に示す旧鎌倉町、旧小坂村行政域とし対象時期は同人会の創立から特に活動が活発であった1915（大正4）年～1945（昭和20）年までとした。その上で表－1に示す文献の読み取り調査を行い、当時の同人会の活動について検証を行った。



図－1 対象範囲
(1927年地形図『鎌倉』⁴⁾より筆者作成)

表－1 研究で用いた資料一覧

資料名	発行元	発行年
鎌倉同人会五十年史	(社)鎌倉同人会	1965 年
鎌倉同人会八十年史	(社)鎌倉同人会	1995 年
鎌倉同人会会員名簿	(社)鎌倉同人会	1942 年
地形図「鎌倉」1/1 万	(社)鎌倉同人会	1927 年
鎌倉同人会に就いて	陸奥 広吉	1928 年
鎌倉市史近代通史編第二	吉川 圭三	1990 年

5. 結果および考察

文献調査の結果、同人会の体制と活動内容より「象徴的景観形成期」「国宝館建設集中期」「活動範囲拡大期」「軍部影響強大型」の4時期に分類出来た。その主な活動の変遷を表－2に示し、以下その分類に従って考察を述べる。

(1) 象徴的景観形成期

(1915（大正4）年～1923（大正12）年）

同人会の草創期にあたるこの時期の活動は、松並木保護、段葛改修、鎌倉駅の改築など、若宮大路を中心とする象徴的景観の形成に特徴づけられ、活動の目的は利便性だけに留まらず景観向上に向けられている。この時期の主な活動分布図を図－2に示す。

初代理事長は元英国全権大使の荒川巳次が長く務め、その他の理事も主に元官吏であった。

具体的な活動として、若宮大路の松並木保護については、同人会が「鎌倉の歴史を物語る最も重要な物」⁵⁾と位置付け、その景観保護を行っている。この松林はわが国初のサナトリウムである鎌倉海浜院の趣意書⁶⁾においても松から発するテレピン⁷⁾の効用が保養に望ましいと高く評価されており、鎌倉を保養地とする所以だったことがうかがえる。そのため、同人会の非会員からも松林保護の寄付が行われている。

段葛は雑木が複数生えている程度で荒廃していたが1917（大正6）年に神奈川県有地から鶴岡八幡宮地に組み込まれたことを機に同人会と鶴岡八幡宮、神奈川県の三者が協働して改修することとなった。この改修計画については県から「花モノハ望マシカラザル」⁸⁾と修正されていたが、荒川巳次と海軍土木技師の石黒弘毅による設計でサクラとツツジが植えられており、段葛を華やかに演出する同人会の狙いが伺える。

1915（大正4）年に行われた鎌倉駅の改築請願では外国人観光客や皇族が利用する鎌倉駅の特異的な環境を述べた上で、鎌倉の歴史的な景観に調和したデザインの設計を希望している。この年は横須賀線の複線化と重なったため鉄道院でも改築の必要性を認め、翌年に鉄道院技師の上野肇による設計で建替えられている⁹⁾。このデザインは多くの市民の好評を得て、現在にもその一部が引き継がれている。

以上よりこの時期に行われた活動の多くは鎌倉の象徴的な景観として現代に継承されていることが捉えられる。

(2) 国宝館建設集中期

(1923（大正12）年～1928（昭和3）年）

この時期の活動は、各社寺の重宝を保管するための施設である鎌倉町立国宝館（以降、国宝館）を建設することに集中していることに特徴づけられる。理事長は引き続き荒川巳次が務めているが、国宝館が完成し退官した。

1923（大正12）年に発災した関東大震災は鎌倉の社寺にも甚大な被害をもたらした、このような危機的状況から鎌倉の重宝を守るとは各社寺にとって急務であった。このため鎌倉社寺総代の建長寺及び円覚寺から同人会に国宝館建設が提案され、理事の間でも博物館の必要性は議論されていたことから、その計画は鎌倉町立の国宝館建設として本格化することとなった。しかし最先端の耐震技術を施す国宝館の建設には約六万円の莫大な費用を

要し、同人会がその大部分を会員の出資と寄附の呼びかけで確保することとなった。こうして完成した国宝館は鎌倉の重宝を今日まで継承している。

また、同人会の提案による極楽寺の忍性墓などの復旧に地元住民が積極的に協力したり、由比ヶ浜大通りの六地藏復旧に地元青年団が労力を寄付したりするなど、社寺並びに史跡の復旧活動が同人会と周辺住民、他団体などによる協力で行われる傾向を捉えた。

(3) 活動範囲拡大期

(1928 (昭和3) 年～1936 (昭和11) 年)

この時期の活動は鎌倉の中心地である若宮大路やその周辺の別荘地に限らず、北鎌倉や二階堂などの地域に展開されるようになったことに特徴づけられる。この時期の主な活動分布図を図-3に示す。

理事長は元日本郵船社長で当時ジャパントイズ社長であった伊東米治郎が努め、その他の理事も民間出身者が務めるようになった。尚、伊東米治郎の死後4年間は理事長が空位となっている。

同人会の活動についてみると、震災復旧については二階堂の瑞泉寺や北鎌倉駅周辺の円覚寺、建長寺などに寄附が行われている。インフラ整備については郵便局新築、踏切設置、駅階段増築の請願において「民衆ノ希望」⁵⁾「就学児童ノ通過ニ危険」⁶⁾などの地元住民のための改善を望む声が組み込まれ、活動がより市民に身近な形で行われるようになった。また由比ヶ浜海岸では海水浴客の増加による環境悪化が深刻化し、同人会によって公衆便所の設置やごみ箱の設置など海岸の整備が行われている。

以上よりこの時期は各社寺への寄附による保存活動が行われた一方で、鎌倉町の住環境や海水浴場改善に伴う活動が行われている傾向を捉えた。

(4) 軍部影響強大型

(1937 (昭和12) 年～1945 (昭和20) 年)

この時期は戦局の悪化に伴いまちづくりが縮小するが、理事長を中心とする請願や陳情によっていくつかの史跡を喪失の危機から保護したことに特徴づけられる。

理事長は海軍少将の犬塚助次郎が就任し、理事の多くを軍人が務めるようになった。

活動についてみると松林の保護柵などの供出が相次ぎ、新たな成果を出せなくなる中で、1942 (昭和17) 年に英勝寺旧山門の銅葺屋根を金属供出するよう要求された際に、犬塚理事長が中心となり同人会で陳情をし、保護することに成功している。また関東大震災以降続けられてい

た長谷寺観音堂の復興も犬塚理事長の尽力により完成させた。こうした史跡保存を戦局悪化と物資不足の中で成し遂げる事ができたのは軍部の有力者が理事にいたことが大きく影響していたためと考えられる。インフラの整備では1938 (昭和13) 年に鎌倉駅表口に洗面所と水飲み場や、鎌倉市が整備していたハイキングコースの案内板設置費用などを寄附している。特に鎌倉駅の水飲み場寄付の申請書では鎌倉駅を「観光地駅」と初めて記していることにより、同人会が戦局の悪化が深刻化するまで観光都市としての発展に貢献していたことが捉えられた。

6. まとめ

以上より同人会の活動内容が別荘族から地域住民のまちづくりへと変化する過程を捉えた。さらにその手段も国宝館建設を筆頭とする別荘族のスポンサーシップによるものから、関東大震災後の別荘文化衰退と共に陳情や請願を行うものに変化している。

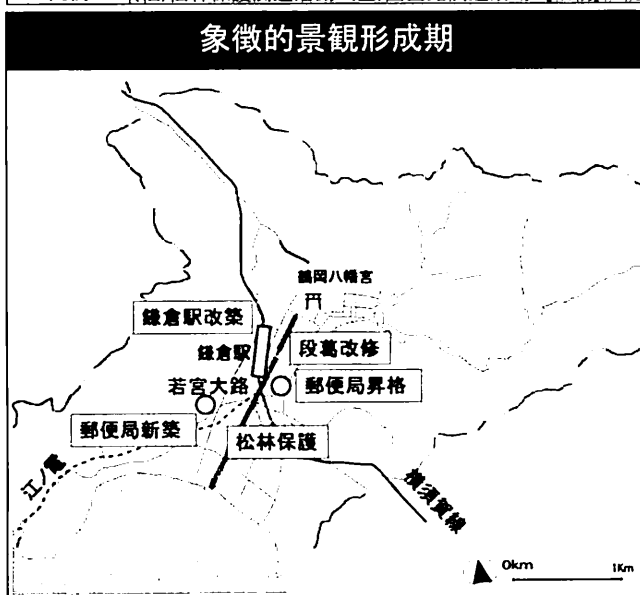
以上のように多くの史跡や重宝は同人会の保存活動によって関東大震災や第二次世界大戦に伴う喪失の危機から免れたといえる。また段葛の桜並木に代表される鎌倉の景観を華やかに演出し、現代までその歴史的価値を継承しながら多くの人を魅了している。

参考文献

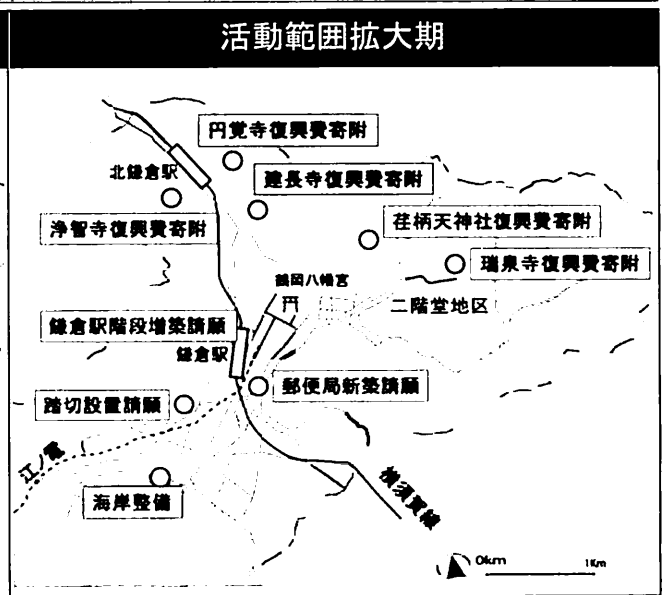
- 1) 鎌倉市市民経済部市民活動課：市民活動団体と鎌倉市との協働事業推進に向けた取組みについて（平成18年度報告書），2007年。
- 2) 片貝千尋，十代田朗：鎌倉における住環境を巡る市民運動の変遷，東京工業大学卒業論文，2005年。
- 3) 青木佑太，横内憲久，岡田智秀，押田佳子，瀬畑尚紘：歴史的変遷からみた鎌倉における徒歩観光を促す観光まちづくりに関する研究—（その2）全21本の「通り」の特性に着目して—，平成23年度日本大学理工学部学術講演会論文集 pp. 421-pp. 422，2011年。
- 4) (社)鎌倉同人会：地形図『鎌倉』1/1万，1927年。
- 5) (社)鎌倉同人会：『鎌倉同人会五十年史』，(社)鎌倉同人会事務所，pp20，pp37，pp126，pp129，1965年。
- 6) 大日本私立衛生会：『大日本私立衛生会雑誌第五十号』，pp. 616-711，1887年。
- 7) 久保田稔男：鉄道技師上野肇の履歴について 東京市街線建設に関する歴史的研究その3，日本建築学会大会学術講演集，pp. 357-pp. 358，2004年。

表－2 同人会の主な活動の変遷表

時期	理事長	景観保護	史跡保存	インフラ整備
(大正4年～大正12年)	大島久 満次 (象徴的景観形成期)	【大正4年】 ・(松)松並木の保護[継続] ・道路清掃[継続] 【大正5年】 ・(松)ポール・メッサー、日本実業銀行による寄附工事を実施 【大正6年】 ・(松)強風被害から倒木を修復 【大正8年】 ・由比ヶ浜海岸埋立て計画を阻止 【大正10年】 ・(松)100株補植 ・有志による海岸清掃を実施[継続] (同人会として三円を寄附)	【大正4年】 ・腹切窟の改修 ・葛原岡神社改修寄付 【大正6年】 ・段葛改修(設計は会員:石黒弘毅) 【大正7年】 ・荏柄天神社修復費寄附 ・六地藏改修(設計は会員:黒田清輝) ・『鎌倉重宝一覽』を出版 【大正8年】 ・鎌倉宮修理費を寄附 【大正10年】 ・八幡宮境内整理に寄附	【大正4年】 ・郵便局昇格 ・街灯の設置[継続] ・鎌倉駅改築 【大正5年】 ・二の鳥居付近の公衆便所を鶴岡八幡宮に移設 【大正7年】 ・有志による「郵便局新築会」発足 【大正8年】 ・会員が街燈を寄附 ・地形図「鎌倉」発行 ・街燈による時報を開始 【大正10年】 ・(貧困家庭向け)学用品寄附[継続]
(大正12年～昭和3年)	陸奥川巳次(外交官) (国宝館建設集中期)	【大正14年】 ・夏季の海岸清掃に町が助成金	【大正14年】 ・(宝)円覚・建長両寺の依頼を添えて町と具体案協議 【大正15年】 ・極楽寺住民で忍性墓等を修復 ・杉本寺、巽荒神社修理費を寄附 【昭和2年】 ・六地藏修復 【昭和3年】 ・(宝)国宝館完成	【大正13年】 ・浄明寺区滑川沿い道路の復旧を要請
(昭和3年～昭和11年)	伊東米治郎(ジャパネット社長) 空位 (活動範囲拡大期)	【昭和4年】 ・(松)松並木中の車庫建設規制 ・滑川清掃寄付[継続] 【昭和6年】 ・(松)保護柵をコンクリート製に変更 【昭和8年】 ・御用邸の松を移植 【昭和9年】 ・段葛のツツジ増植費寄附	【昭和3年】 ・円覚寺寄付 ・建長寺寄付 【昭和4年】 ・瑞泉寺寄付 【昭和7年】 ・荏柄天神社寄付 ・浄智寺寄付 【昭和8年】 ・瑞泉寺寄付 ・大町辻薬師堂寄付	【昭和3年】 ・由比ヶ浜公衆便所を設置 【昭和5年】 ・江ノ電、鉄道省に踏切設置を要請 ・郵便局新築を要請 ・由比ヶ浜にゴミ箱設置 【昭和10年】 ・二階堂に小公園を整備 ・鎌倉駅階段新設要請 ・東京電燈派出所を昇格 ・飛地整理と公会堂建設要望
(昭和12年～昭和20年)	犬塚助次郎(海軍少将) (軍部影響強大期)	【昭和12年】 ・円覚寺貫通の観光道路計画阻止 【昭和15年】 ・(松)松林保護工事を自費 ・鎌倉山風致林伐採阻止を県に陳情	【昭和14年】 ・八幡宮に方位指示盤を奉納 【昭和16年】 ・方位盤を供出 【昭和17年】 ・英勝寺旧山門を保護 【昭和18年】 ・長谷観音堂が落成	【昭和12年】 ・郵便局が完成し落成式 【昭和13年】 ・鎌倉駅に公衆水飲場を寄附 【昭和14年】 ・ハイキングコース案内板設置費を市に寄附 【昭和18年】 ・灯火管制により街燈を撤去
凡例		(松)松林保護関連活動 (宝)国宝館関連活動 [継続]継続事業 下線は本文で記載した活動を示す		



図－2 象徴的景観形成期の主な活動分布図
(1927年地形図『鎌倉』⁴⁾より筆者作成)



図－3 活動範囲拡大期の主な活動分布図
(1927年地形図『鎌倉』⁴⁾より筆者作成)